

特定保健指導（積極的支援）の効果検証

今号では、市町村国保における特定保健指導（積極的支援）による検査値及びメタボリックシンドローム判定の変化等について分析を行います。

検査結果の改善状況

平成26年度の特定保健指導（積極的支援）対象者3,527人のうち、平成27年度に特定健診を受診した人を、保健指導終了者（以下『終了者』：705人）と、保健指導未利用者（脱落者は含まない。以下『未利用者』：1,341人）に分け、平成26年度と27年度の各検査項目及びメタボリックシンドローム判定の変化を比較しました。

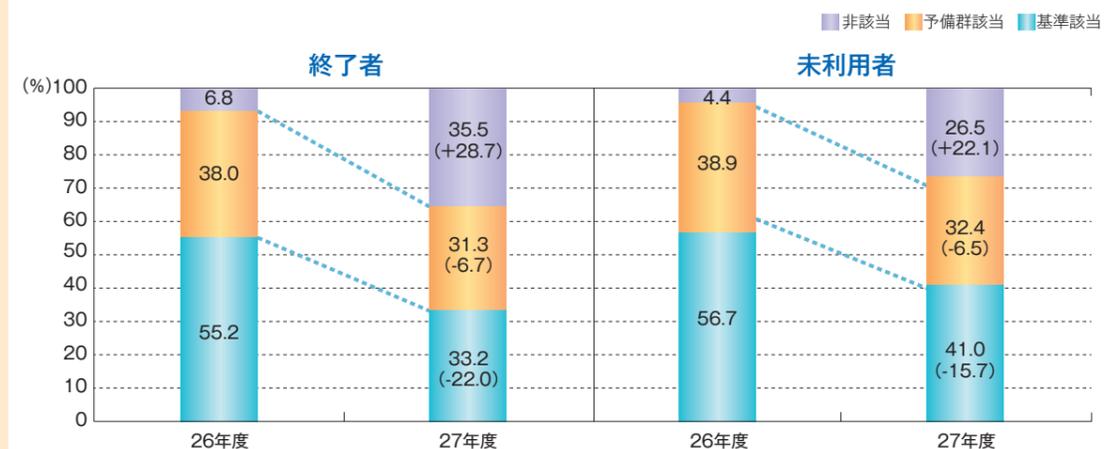
※平成28年12月時点の健康情報データベースより抽出

各検査項目の変化（平成26年度と27年度の差の平均値を棒グラフで表示。「I」は95%信頼区間を示します。）



メタボリックシンドローム判定の変化

※27年度のカッコ内の値は、26年度との差です



Read Data… 特定保健指導（積極的支援）終了者の約3割がメタボ脱出

各検査項目の変化においては、拡張期血圧以外で終了者のほうが未利用者より数値が改善されています。特に体重、腹囲、中性脂肪、HDLでは、統計的に有意差があるという結果となりました。

また、メタボリックシンドローム判定の変化においては、終了者の約3割（28.7%）がメタボから脱出しており、未利用者より高い改善率となっています。

これらの結果より、特定保健指導（積極的支援）はメタボ改善の効果が高いといえます。

医療費の状況

平成27年度の特定健診によるメタボ判定区分ごとに平成27年度（平成27年3月診療分～平成28年2月診療分）の1人あたり医療費を算出しました。

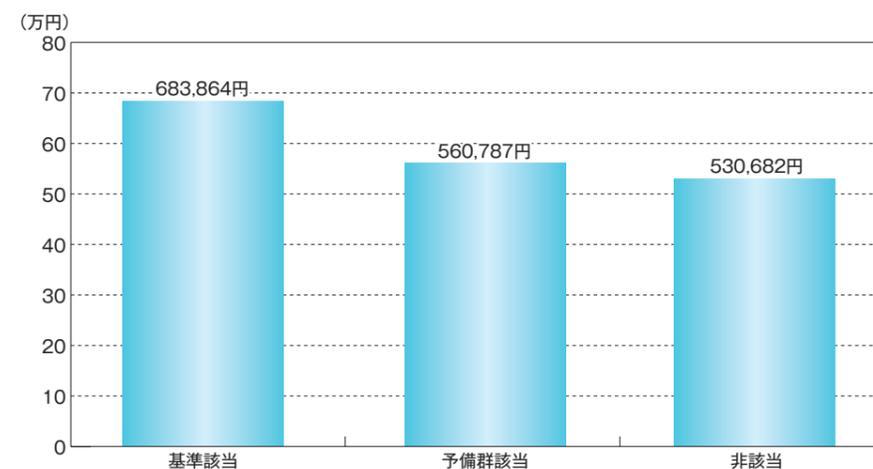
$$1人あたり医療費 = \frac{\text{メタボ判定区分対象者の平成27年度医療費合計（医科・調剤）}}{\text{メタボ判定区分対象者数}}$$

メタボ判定区分対象者数…基準該当：20,869人、予備群該当：13,416人、非該当：102,634人

※メタボリックシンドロームが大きく関与する生活習慣病を含むレセプトのみを対象としています。

※平成28年12月時点の国保データベースより抽出

メタボリックシンドローム判定と1人あたり医療費



Read Data… メタボ該当者の1人あたり医療費は、メタボ非該当者より約15万円高い

メタボ該当者の1人あたり医療費は、メタボ非該当者より約15万円高い状況となっています。医療費適正化のため、今後も効果的な特定保健指導により、メタボ該当者及び予備群を減らしていく必要があります。